

ドンマイ、次はがんばろう。



神奈川県 湘南ゼミナール宮前平教室 小学6年

米岡 奏人

第5回日本語大賞 小学生の部 優秀賞 受賞作品

ドンマイ、次はがんばろう。

神奈川県 湘南ゼミナール宮前平教室 小学六年

米岡 奏人（よねおか・かなと）

ぼくは、もし友達が何かに失敗して落ち込んでいたら、その友達に、はげましの気持ちを含めて、「ドンマイ。」と言いたい。なぜなら、ぼくが親友に、「ドンマイ。」と言われて安心し、心が前向きになったことがあるからだ。

二〇一一年、冬。学校の体育の時間。サッカーをやっていた。苦手なサッカーでぼくは無理矢理ゴールキーパーをやらされた。相手チームにはサッカーが得意な人がたくさんいる。最悪だ。そしてついにボールが来た。だがけたのは女子だった。「よかった。」と思った。ボールは目の前で転がっている。しかしボールは足の間をぬけ、ゴールネットを小さくゆらした。チームのみんながかけよってきて、「何やっているんだよ。」「あれぐらい取れよ。」と、どしどし責めてきた。ぼくは下を向いたまま、静かにボールを拾った。チームからの文句はまだ続いている。その大きな声の中から、親友の声が聞こえた。親友は、「ドンマイ、ドンマイ。時間無いから早く続けようよ。」と言って、みんなを連れていってくれた。その後ぼくに向かって、「次はしっかり取れよ。」と笑いながら言った。その言葉を聞いてぼくは前向きになった。その親友は、周りの人の意見に流されずに、周りの人と反対のことを言って、ぼくのことをはげましてくれた。ぼくは親友がかっこいいと思った。他の人にとってこの出来事は一しゅんのことだったかもしれない。でもぼくにとって、心にひびく長い時間だった。

この経験から、きつとどんな人でも「ドンマイ。」と言われたら元気になり、前向きになるだろうと考えた。実際に自分がそうなったからだ。

ぼくはたった四文字で友達に元気付けられた。次はぼくが他人を元気付ける番だ。ぼくは今後、友達が落ち込んでいたら、すぐに「ドンマイ。」と言う。そしてこの言葉聞いて、たくさんの方が元気に、前向きになってくれたらいいなと思っている。